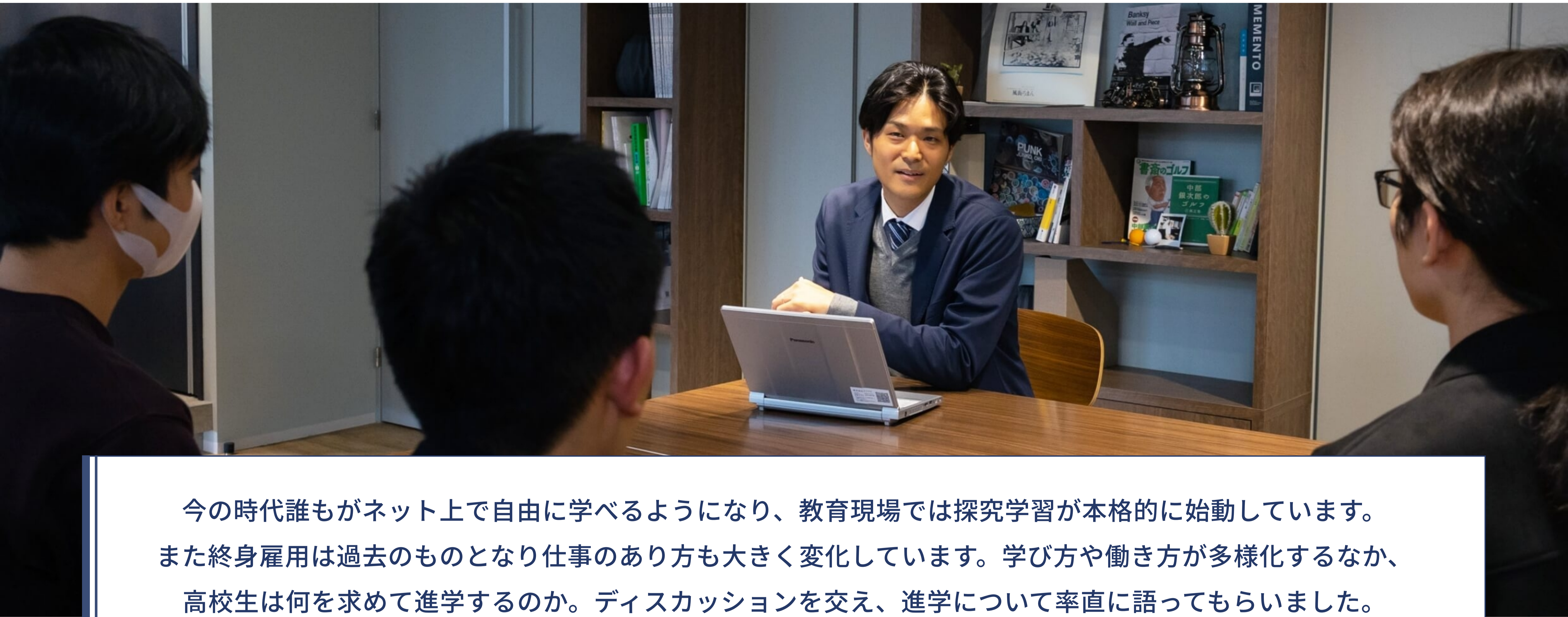


## Interview

# 「何のために進学する？その先の人生設計とは？」

## 次世代を生きる現役高校生の進路選択



今の時代誰もがネット上で自由に学べるようになり、教育現場では探究学習が本格的に始動しています。また終身雇用は過去のものとなり仕事のあり方も大きく変化しています。学び方や働き方が多様化するなか、高校生は何を求めて進学するのか。ディスカッションを交え、進学について率直に語っていただきました。

### プロフィール



**伊藤さん（仮名）** / 大学経営学部に進学決定。通信制高校に在籍する高校3年生

アイデア出しや物事を発展させるのが好きで、高校ではイベント主催や委員会活動に積極的に参加。もともと服が好きなこともあり、服飾関係の仕事に就きたい。特にアパレル企業の商品企画・販売に興味がある。



**木村さん（仮名）** / 専門学校プロダクトデザイン科に進学決定。通信制高校に通う高校3年生

高校2年まで全日制に通い、3年から現在の通信制高校に転入学。デジタル社会が進展してもモノはなくならないと考え、ものづくり分野のデザイン専門学校に進学を決める。技術獲得のほか世の中のニーズへの関心が高い。



**矢嶋さん（仮名）** / 大学工学部への進学を希望。私立中高一貫校に通う高校2年生

高校生が代表理事を務める学生団体に中学3年から所属。未成年の権利向上を目的とし、企業と共創しながら社会問題の課題解決に取り組んでいる。将来の目標は、大学で情報工学について学び、教育改革を行うこと。

### 学力よりも人間性を重視した学校選び コミュニケーション強化や教育理念への共感

**青木（マイナビ）** まずは中学校時代の進路選択について教えてください。高校選びはどのように行いましたか？高校を決めたポイントや経緯を教えてください。

**伊藤さん** 私が通う通信制の高校では企業とのコラボ授業

も多く、実践的に学ぶことができます。授業構成も、企画戦略の基本を学べる授業と、ビジネスモデルをイチから組み立てる授業という二段階にレベル分けされています。実学教育が入学の決め手となりました。

先日も陸上自衛隊の職業体験に参加しました。400人程度の応募があり約20倍の倍率があったようですが、こうした貴重な経験ができるのは今の高校ならではの。通わせてくれた親に感謝しています。

# Interview

**青木（マイナビ）** 中学生の頃からビジネススキルの獲得を意識されていたのですね。

**伊藤さん** 実は、以前は人と話すのが怖く、こういう座談会への参加など考えられませんでした。そんな自分が嫌で、自分を変えたいと考えていたときに今の通信制高校を見つけました。同じような境遇の人もいるだろうし、自分も何かレベルアップできるかもしれない。全日制の高校も調べましたが、せっかく同じ3年間学ぶのであれば、社会で役立つスキルを学べる実学重視の学校がいいと入学を決めました。

**木村さん** 高2まで通っていた学校には、正直なところ、偏差値などで選び、流されるように進学しました。3年に進級するギリギリのタイミングで今の通信制高校に転入。通信制のなかでも通学スタイルで学べる現在の高校を選びました。

**矢嶋さん** ミッション系の中高一貫校に通っています。中学受験をした理由は、人間力と学力のどちらも理念に掲げる学校だったから。学力のみで賞賛されるのではなく、人間の生きる術や生き方を重視する点に惹かれました。聖書を解釈する機会もあり思想を大事にする学校です。キリスト教信者ではありませんが、聖書の教えを少しでも身近に感じていたいという理由もありました。

**青木（マイナビ）** 伊藤さんは、社会で役立つスキルを身につけたかったというお話でしたが、「自分の成長」と「社会貢献」どちらを目標にしていたのでしょうか？

**伊藤さん** 自身の成長です。後々それが人や社会のためになるのだったら、まずは自分の足りない部分を補いたいなと。自分を変えるために必要だと思ったのが、コミュニケーションスキルや対人スキルで、その延長線上にあるプレゼンテーションやファシリテーションの力は、社会でも役立つと考えました。人間は褒められたら伸びるし自分もそれがほしかった。人間的にも社会的にも優れた人間になりたいという気持ちはありました。

**青木（マイナビ）** 矢嶋さんの「人間性を重視」という思いの背景は何でしょうか？

**矢嶋さん** 勉強がすごくできるわけでもないのに、人間力はもうひとつの重要な柱。学力面をカバーする武器として人間力を身につけたいと思いました。

## 2022年度新科目「総合的な探究の時間」 主体的・横断的な学びは高評価

**青木（マイナビ）** 変化の激しい時代において、答えのない問いに課題解決への道筋を立てられる力が求められています。新科目「総合的な探究の時間」ではどのような授業が行われていますか？



**伊藤さん** 「総合的な探究の時間」はほぼオンライン動画でながら見程度でした。動画にしていること自体が間違い。一方で楽しかったのは、探究学習の一環としてスクーリングで行ったディスカッションとファシリテーション。反対派・賛成派、性善説・性悪説に分かれた議論はとても勉強になりました。ファシリテーターとして「自分はこう考えるけど、あなたはどう思う？」と場を回すことで対話が生まれました。

オンラインとオフラインのコミュニケーションが両立するハイブリッドな時代だからこそ、探究の時間ではもっと対人スキルの強化を行ってほしい。

**矢嶋さん** 私の高校の「総合的な探究の時間」は充実しています。修学旅行の1年前から旅行先に関する事前学習があったり、中3から高3まで頻繁に進路学習の機会があったり。

“総合”的な学習は教科横断型学習なので、沖縄の平和学習では歴史の観点のほかに、遺書の解釈は国語の視点から、沖縄の地理・地形は理科や社会の視点から学んでいます。もっと進化させたいのは、生徒中心の学び方。自分たちで企画・運営する機会も必要だと思います。

**木村さん** 私は「総合的な探究の時間」にはあまり満足していません。修学旅行の準備や社会人の講話、長崎での原爆の話など、昔の教訓から得るものがあり、働いている

## Interview

方の意見や考えを聞くことは大切ですが、そのうえで自分たちがどういう方向に進むべきかについて話しあう時間が少ない。探究の時間にもっとディスカッションを取り入れてほしいです。

高校に限らず、中学時代を振り返ってみても、ひとつのテーマに対して、ディベートやディスカッションなど、集団で考えて答えを見出す練習をほとんどしたことがありません。

**青木（マイナビ）** 以前までの「総合的な学習の時間」でも学習指導要領上は教科横断的な探究学習が求められていましたが、実態としては特定科目の補習や自習時間など、色々な用途に使われていました。新しい時代に適応する力を身に付けるために総合的な「探究」の時間に名称が変わったわけですが、想像以上にみなさんが授業の狙いを理解しているなと感じました。

今後、探究学習で身につけた力は活かせると思いますか？

**伊藤さん** コミュニケーションスキルが身についたおかげで友だちが増えましたが、大学ではこの力をそのまま活かせるとは思っていません。自分で考えて行動することが大切だと思います。

現在、個人的な活動として大学イベントの企画に携わっています。大学関係者や社会人とのディスカッションを通じて、さらにコミュニケーションの質を深め、向上させていきたい。

**青木（マイナビ）** 木村さんは、先ほどディスカッションの機会がほしかったと話されていましたが、もし目の前に機会があればチャレンジしていましたか？それとも実践する場の探し方がわからないのでしょうか？



**木村さん** 機会があっても参加できないかもしれません。未だに自分から動き出すことに戸惑っています。

**青木（マイナビ）** 矢嶋さんからは学習指導要領でも表

現されている教科“横断型”学習というキーワードが出てきて驚きました。探究学習は今後どのように活用できそうですか？

**矢嶋さん** 探究学習の応用として、複数の科目を掛け合わせて視野を広げる必要があるでしょう。

ただ、社会で使わないことを学ぶのには違和感があります。例えば、歴史の暗記ではなく、本来は歴史の解釈の仕方を学ぶべきだと思います。

### 学校選びのポイントはさまざま 少人数制から学びの幅広さまで

**青木（マイナビ）** 進学先選びについて伺います。どんなポイントを重視されていますか？

**伊藤さん** 進学先の大学に決めた理由は、**少人数制の授業**です。少人数であればあるほど、学習の理解も、学内コミュニティの関係性も深まります。また企画力やコミュニティ政策力、協働する力などが育まれる学びに惹かれました。オープンキャンパス（以下、OC）も学生主体で運営されていて、行動力のある学生が多い大学ならではの。一緒にオープンキャンパスへ参加した親も好印象で、指定校推薦枠もあったので受験しました。

**木村さん** 私は自分の興味関心事を探ることから進路選択が始まりました。好きだったのは、イラストを見たり描いたりすること。当初は、イラスト関係を考えましたが、**自分の能力や職業としての向き不向きを考慮し**、“ものづくり”に方向転換。自分にとってイラストは「見て楽しむもの」という結論に達し、手を動かして物を作ることが得意だったのでデザイン分野に決めました。進学先は、デザイン系の専門学校。8学科48専攻のコースがあり、デジタル、イラスト、映像、家、服、車など幅広いデザインを学べます。

**矢嶋さん** まだ具体的な志望校は絞り切れていませんが、大学の工学部で、情報の取捨選択や統合など情報の見方を学び、教育改革を行いたい。大学選びのために「マイナビ進学」も使いながらパンフレットを取り寄せています。

## Interview

### 進学先で身につけたいのは社会で役立つ力 先輩の体験談やカリキュラムの柔軟性が 決め手に

**青木（マイナビ）** 伊藤さんは、経営学部に進学されると伺いました。どのように学部選びを行いましたか？

**伊藤さん** 経営学部を決めたのは、高校の先輩の話がきっかけ。皮膚アレルギーのある方向けにオシャレな服を提案する会社を起業され、夢を掴んだ先輩です。自分もこうした皮膚疾患のある人のための服づくりに携わりたい。商品企画など「作り出す」ことに加え、販売など「売り出す」ための戦略を学ぶ「経営学部」にたどり着きました。中学生の頃に観た映画の影響もありました。主人公が皮膚の病から幼少期にいじめられて精神を病み、殺人鬼になってしまうストーリー。皮膚の病からこれほどまでに追い詰められてしまう人がいることを知り、解決したいと考えていました。

**青木（マイナビ）** 影響を受けた先輩の話は、高校の進路講演などで聞いたのですか？

**伊藤さん** 学校のSNS（Slack）でその起業された先輩を見つけてDMを送ったところ、快く体験談を話してくださいました。気になった人にはSNSを通じて直接連絡が取れるのは、今の時代のメリットだと思います。



### 激変する社会のなかで 現役高校生が思い描く人生設計

**青木（マイナビ）** 進学後に身につけたいこと、実現させたいことは何ですか？

**矢嶋さん** 情報データの調査やデータ分析を通して、新

たな教育を提案、実践していきたい。その先まで考えると一方向にしか視点が向かなくなるので、現時点ではここまでしか考えていません。

**青木（マイナビ）** 時代や情勢の変化に柔軟に対応できるよう、進路の決断に余白を残しておくようなイメージでしょうか。そう考えるようになったきっかけはありますか？

**矢嶋さん** というよりも、ひとつのことに集中したい性格に依るところが大きいです。学生団体の活動は進路選択に直接的な影響はありませんが、社会にどのような人がいるのかを知ったり、他者の意見を取り入れたり、教養の場になっています。

**伊藤さん** 経営学に加え商品企画論などマーケティングを学んで起業、もしくはユニクロやGUのような大手アパレル企業の企画部門で活躍できるくらい成長したい。現在、マーケティングの勉強のために、USJをV字回復させたマーケターの本を読んでいます。

**木村さん** プロダクトデザインに進むと決めましたが、人生設計は、その時々雇用や世界の情勢で移り変わるもの。現在は日本が円安であったり、世界的にはウクライナ侵攻で緊張が走ったり。これから世の中がどのように変わるかわからないので、めざすべきところは定めながらも、必ずしもその職業にこだわる必要はないと考えています。

### オープンキャンパス（OC）は 進路決定に欠かせないリアルな情報源

**青木（マイナビ）** 志望校検討としてOCは参加されましたか？

**木村さん** 気になった学校は見に行くようにしていましたが、動き出しが遅く、初めてOCに参加したのは高2の9月。コロナ禍の影響もあり5校のみ訪問しました。時間があつたら4年制大学のOCにも参加したかったです。

**伊藤さん** 高校の先生から少なくとも5校のOC訪問を勧められましたが、興味があった大学2校のみを訪問しました。

**矢嶋さん** 私は名前を知っていた2つの大学を訪問しました。話しかけてくれた学生スタッフの方が親切で、話さ

# Interview

れていた研究内容が明確でした。もともと受けたいなと思っていた大学でもあり、OC訪問したことで志望度が強まりました。

**青木（マイナビ）** OCではどんな人のどんな内容の話を知りたいですか？

**伊藤さん** 予備校に授業が面白く大人気の先生がいます。そういう魅力的な先生が模擬授業で教えていたら興味を惹かれます。

**木村さん** ほしい情報は、カリキュラムや提携講座など詳細の授業内容や、業界の実態など本音の部分。OC訪問では、売れない人は売れないという実力主義の世界であること、別の職種に就いている卒業生もいるというリアルな話も伺うことができました。転職事情や待遇なども気になります。就職先も大手ばかりではなく中小企業も含めすべて出してくれた方が信頼できます。

**青木（マイナビ）** 他に何か参加時に心がけていたことはありますか？

**伊藤さん** 私は、事前にチェックポイントを決めてOCに参加していました。第一志望で、校舎や通学距離、治安、交通の便など気になる点もクリアしていましたが、OC訪問時のフィーリングでダメだ…となりすぐに帰りました。一方、進学先の大学は住宅地の閑静なロケーションですが、学内は活気があり楽しい雰囲気を肌で感じられました。



**青木（マイナビ）** 実際に足を運んだからこそわかる雰囲気も重視したのですね。

オンラインOCに目を向けると、コロナ禍で多くの学校が開催するようになったものの、2022年度の参加割合は前年と比べて減っているようです。（※図1・2）皆さんなら、どのようなオンラインOCであれば興味がありますか？

図1 「大学及び短大」の「オンライン形式」イベント参加のべ総数昨対比（推計）

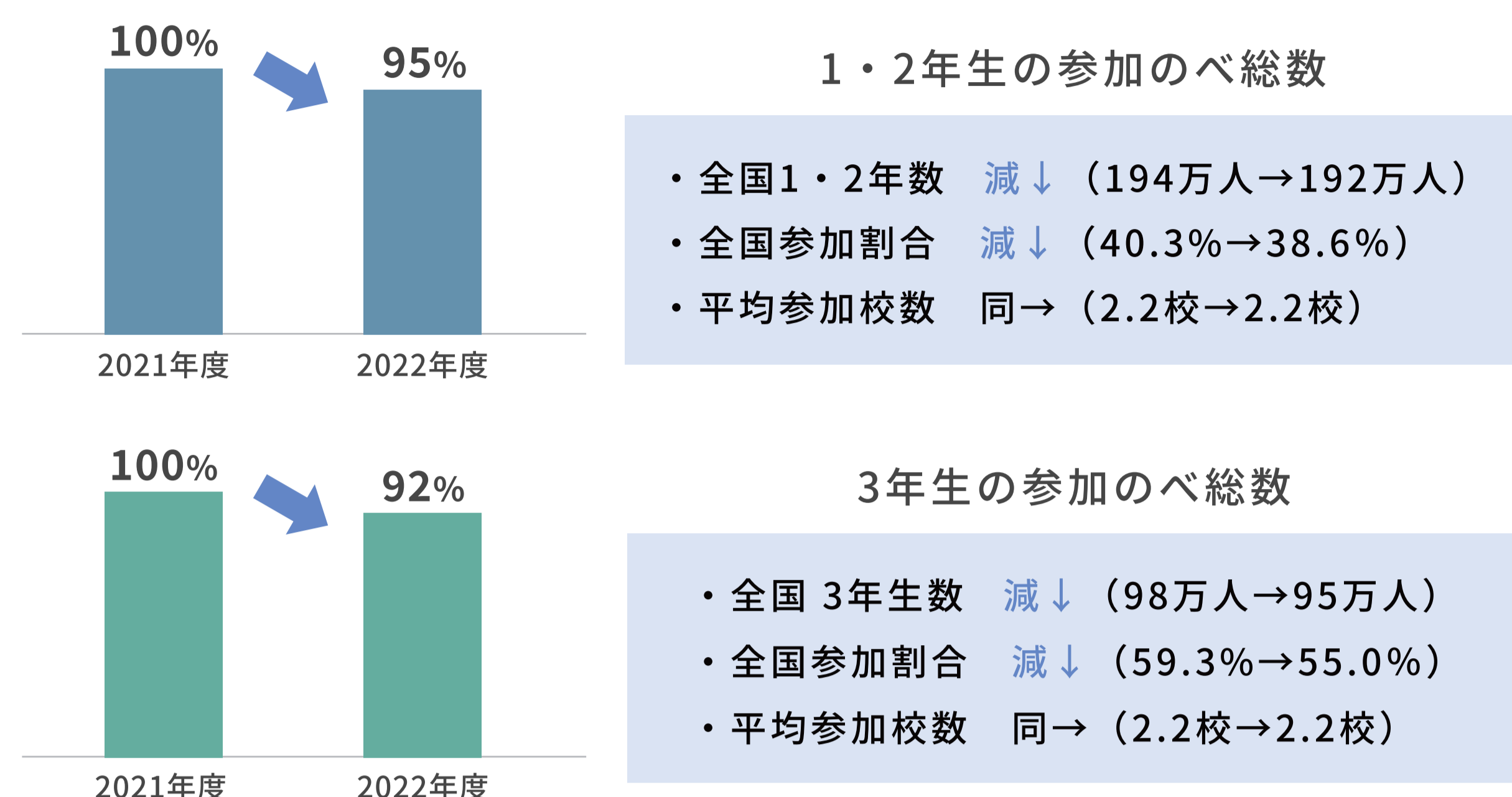
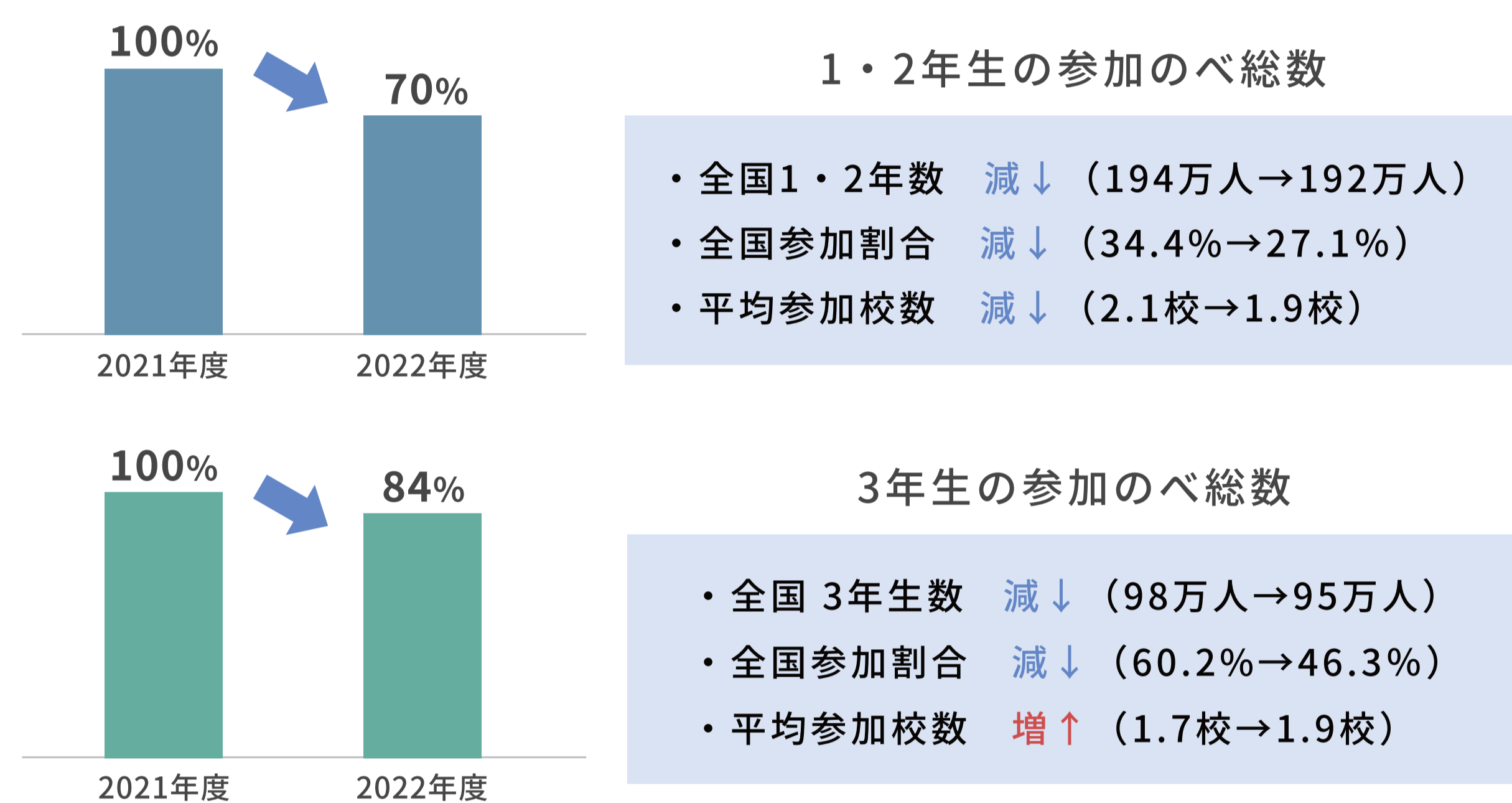


図2 「専門学校」の「オンライン形式」イベント参加のべ総数昨対比（推計）



出典：オープンキャンパス実態調査  
（2022年8月30日（火）～9月1日（木）実施、有効回答数1,595人）

**木村さん** オンラインOCで話されることは学校WEBサイトに掲載されていることと同じ。実際に足を運んだ方がその学校のことがよくわかります。高校生の目線に近い在校生がすべてを運営するオンラインOCだったら参加したい。

**伊藤さん** オンラインOCに参加するメリットを提示してもらえたら嬉しいです。オンラインOCは垂れ流しの印象が強く、飽きさせない工夫が必要だと思います。メタバースや現役学生が作ったWEBサイト上でアバターを動かしてOC訪問できると楽しめそうです。

**矢嶋さん** 私はアバターでオンラインOCがあっても興味はありません。仕掛けに関係なく、気になる学校があったら足を運んで実際に確かめたい。もっと言うと、OCや説明会の建前の情報より、普段のキャンパスライフを見たい。イベントではない先輩たちの姿の方が説得力があります。

## 多様化する入試制度 人間性を重視する推薦入試や入りやすさを優先

**青木（マイナビ）** 2021年度入試から選抜方式の名称

# Interview

が変わりました。国は多様な学生を多様な方式で選抜し、より時代に即した教育を目指しています。実際に学校によっては、目的に応じた様々な選抜方法が行われています。皆さんは多様な入試をどのように理解し、選んでいましたか？

**伊藤さん** 入試形式については授業で軽く触れた程度で、そこまで深い意識はありませんでした。

私は自分の内面を見てもらえる指定校推薦を選びました。学力以上に実績や人間性で評価されたい。もし進学先の大学に推薦枠がなかったら、公募推薦や面接を重視している別の大学に切り替えていたと思います。実際の入試ではグループ面接がありました。

**木村さん** 今の入試制度に対して特に思うことはありません。多様な入試形式によって学校には多様な学生は増えるかもしれませんが、社会がその多様性に順応できていないのではないのでしょうか。偏差値の高い大学出身者のほうが採用されやすい傾向はあると思います。私は高校の成績と面接の推薦で受験しました。本音を言うと、楽だから推薦を選びました。

**矢嶋さん** これから自分に合った入試形式を選んでいきたい。「自分に合う形式」のポイントは受かりやすさです。

**青木（マイナビ）** お話を聞いていると、入試改革の意図と皆さんの実感との間には少し乖離があるかもしれませんね。マイナビ進学モニター調査で、「志望校選びの際は『学べる内容』を重視する」というデータ（※図3）がありますが、何を見比べ、どこまで細かくチェックしていますか？

**木村さん** 重視したのは、やはり学べる分野の幅広さです。知識欲はありますがひとつのことを突き詰めるのが不得意なので、幅広く学びたいという理由もありました。

**矢嶋さん** 中学受験ではシラバスが参考になりました。大学の学びの内容もシラバスからチェックしたいと考えています。

**伊藤さん** OCの模擬授業でチェックするのは高校生でも理解できる授業をしてくれているかどうか。また、普段の授業を見学できる機会があると嬉しい。授業を通して、在校生が在学年数や学習進度に見合った発言ができるようになっているかを知りたいです。

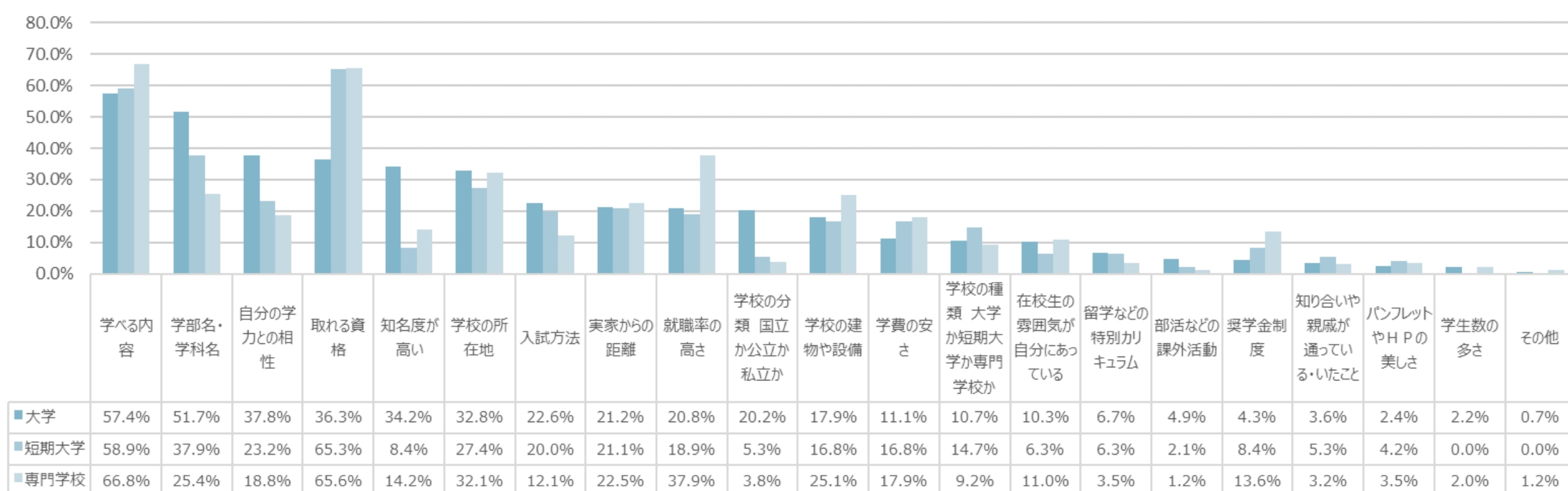
**青木（マイナビ）** 重視するポイントとして、授業のわかりやすさ、学びの幅広さ、ディスカッションの質が挙げりましたが、ほかにもありますか？

**伊藤さん** その授業・取得資格を通して得られるスキルの具体例やビジネス場面での活用例。そのほか、教授・講師陣のプロフィールです。ビジネスキャリアのほか、性格、趣味、モットーや格言などあれば、どんな先生が教えているのかに興味があります。

**矢嶋さん** その大学に進学するメリットを知りたい。その大学に入ったらこんな風になるといった、大学卒業後の道やキャリアパスをイメージができる情報がほしい。中高生が志望理由書で苦戦するのはそういう情報が少ないからだと思います。

**木村さん** 授業で学ぶものと実際に世の中にあるものとのつながり、関係性の説明は大事だと思います。プログラ

【図3】 進学先決定済みの高校3年生に聞いた、志望校選びの際「重視するポイント」（進学先別）



出典：高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査（2022年3月28日（月）～4月3日（日）実施、有効回答数3,107人）

## Interview

ミングの授業であれば、どのゲームの動作や仕掛けに使われているかといった具体例。また「卒業生の声」は成功者ばかりが紹介されていますが、ごく一部の話のような気がします。

**青木（マイナビ）** 進学先の学びと職業とのつながりは大切ですか？

**全員** 大切です。

**青木（マイナビ）** 大学で学ぶ学問や研究はアカデミックな世界。社会で活かす問題解決力や思考力はビジネスの世界。勉強と仕事は別と切り分けている高校生もいるのかなと思っていたのですが、みなさんの意見は？

**矢嶋さん** 私は大学での勉強すべてが社会で役立つと思っています。勉強と仕事を切り分けて学んでいくのがベストでしょう。

**伊藤さん** 大学で学んだことをフル活用しても企業で即戦力にはなり得ないと思います。大学の専攻とは全く関係のない仕事に就いている社会人も多い。但し、学ぶ過程は大切ですし、そこから得られるものがあると思います。

**木村さん** 私は進学先の学びと職業が多少ズレていても、つながりはあると思います。小中高の勉強は職業との関連性を感じられず、大学になってガラッと変わる印象があります。

### 進路決定の優先順位は 進学の目的によってさまざま

**青木（マイナビ）** 志望校や進学先を決める際の優先順位はいかがでしょうか？

- ① 将来の職業を考える ② 学びたい学問や学部を考える  
③ 志望校を考える ④ 入試形式を考える

**伊藤さん** ③ 志望校 > ① 職業 > ④ 入試形式 > ② 学問・学部です。目先の目標を達成できれば次にできることが見つかるので、「志望校」が最優先。

2番目の「職業」は夢と関係しています。進学先で夢を掴むスキルを学ぶのではなく、学んだスキルで夢をつくりたい。でも、夢を叶えるために拘束されるのも苦手なので2番目としました。

3番目の「入試」はいかに自分を伝えて入学できるか。

最後の「学問」は仕事に必ずしも直結せず知識として得るものと捉えています。

**木村さん** ① 職業 > ② 学問・学部 > ③ 志望校 > ④ 入試形式です。私は夢がないどころか好きなことさえわかりませんでした。さらに厄介なことに、私は何かしら目標がないと動けない。志望校を優先すると、志望校の合格が最終目標になりその先に進めません。自分にとっては先を見据えて動くことが大切なので「職業」が最優先事項です。

**青木（マイナビ）** 変化の激しい時代のなかで、新たに生まれる職種もあれば、なくなる仕事もあるかもしれません。自分が今なりたいと考えている職業が今後なくなるかも考えたことはありますか？

**木村さん** 選んだ職業がなくなったらその時はその時だと割り切っています。それよりも目標が定まらないこと自体に悩んでいた時期があったので。極端にいうと、生きる目的をつくるために職業という目標を設定した感じです。

**矢嶋さん** ④ 入試形式 > ① 職業 = ② 学問・学部 = ③ 志望校です。私は「入試形式」が最優先で、そのほかは同列順位です。でも「入試形式」は進路の方向性を決める通過点として最初というだけ。時間軸でいうと、学業は過去の蓄積、現在は志望校選び、未来は職業。時間軸で一直線上にあるので同等の順位です。



### 進学理由は、共通の目的を持った人との 出会い 同じ軸を持ったコミュニティの場

**青木（マイナビ）** みなさんにとって進学する理由は何ですか？何のために進学するのでしょうか？

**木村さん** 進学は「人はなぜ生きるのか」という問いに直結していると思います。人は幸福を求めて生きている。

## Interview

進学は、幸福な自分を実現するための手段のひとつだと思います。

**伊藤さん** 一番やりたいことはズバリ青春。勉強だけじゃなく友だちと飲み会をしてみたり青春を謳歌したい。

**矢嶋さん** 自分のやりたいことを実現させるため。大学では色々な人と関わるので刺激があるし、教授から教えてもらうこともできます。

**青木（マイナビ）** 今の時代はオンラインサロンやYouTube、オフ会もあって人と関わる場所、何かを

学べる場所はたくさんありますよね。敢えて進学する理由はありますか？

**矢嶋さん** 大学は同じテーマで同じような考えを持っている人と出会うことができます。そうした同一軸のコミュニティが大学の価値であり醍醐味だと思っています。

**伊藤さん** 進学先は自分自身が努力できる場所だと思い選んだので、理想は人に頼り頼られ、求心力が高い人に成長していきたい。自由気ままに自分の夢を探していける人間になればいいなと思います。

## 多様なニーズに応える多種多様な情報提供を



マイナビ進学総合研究所  
研究員

青木湧作

今回の座談会では、男子高校生と「進学」というテーマについてじっくり話をすることができました。所属高校の形態も入学経緯も学びに対する考え方も異なる3名でしたが、Z世代の多様な価値観の現れだと感じています。

印象的だったのは、それぞれが自分の進路やその後の人生について深く真剣に向き合っていたこと。周りが進学するからという理由ではなく、社会に目を向けて必要な力、身につけたい力を考えていました。進路決定のプロセスや最終的に導き出す結論は異なりますが、自身の性格や特性と掛け合わせ、社会で活躍するにはどうしたらよいかという前向きな模索を通してキャリア形成へと昇華させています。激変する社会もありのまま受け止め、将来に対しての憂いや恐れも感じられませんでした。

想定以上に、進学先の「学業」と卒業後の「職業」のつながりにも重きを置いています。学びを無駄にしたくないという思いも強く、入試の選抜方法にまでこだわっています。また学校発信の情報を鵜呑みにせず、ある種懐疑的に捉える様子も垣間見られました。よりリアルな情報を求めて、SNSやOC訪問を活用した情報収集を行っています。

このようなZ世代の多様なニーズに真摯に応えていくことも次世代の学校広報に必要なのではないのでしょうか。

本文内のグラフの詳細はマイナビ進学総合研究所サイトよりご確認ください。